

1 法人の概要

1) 沿革

昭和15年	12月28日	財団法人村上学園設置認可
16年	4月1日	布施高等女学校開校
22年	4月1日	布施高等女学校附属中学校開校
23年	4月1日	新制高校の発足により布施学院高等学校と改称
24年	2月15日	布施女子高等学校、同中学校と改称
26年	3月13日	財団法人村上学園は学校法人村上学園となる
28年	4月22日	学校法人村上学園布施女子高等学校附属幼稚園開園
38年	4月1日	学校法人村上学園柏原女子高等学校開校
39年	1月25日	学校法人村上学園柏原高等学校と校名変更、男子部を併設
40年	1月25日	布施女子短期大学（42年4月、東大阪短期大学と校名変更）家政科設置認可を得、開学
41年	1月25日	布施女子短期大学保育科を増設
43年	4月1日	家政科を家政学専攻と食物栄養学専攻に分離認可
44年	4月1日	保育科を幼児教育学科に改称（47年3月廃止）
45年	2月9日	児童教育学科設置認可を得、同年4月1日開設
45年	4月1日	家政学専攻を服飾デザイン専攻に改称 柏原高等学校、女子部を廃止
48年	4月1日	児童教育学科を初等教育学と幼児教育学に専攻分離
63年	3月31日	東大阪中学校廃校認可を得、廃校
平成11年	7月28日	児童教育学科の初等教育学専攻の募集停止届出
12年	3月1日	家政学科に生活福祉専攻設置認可を得、同年4月1日開設
13年	3月31日	児童教育学科の初等教育学専攻廃止届出
13年	5月15日	校名変更認可、平成14年4月から東大阪高等学校を敬愛女子高等学校と改称
14年	4月1日	児童教育学科を幼児教育学科に、服飾デザイン専攻を生活デザイン専攻に名称変更
14年	12月19日	東大阪大学設置認可、平成15年4月1日開学 校名変更認可、平成15年4月から東大阪短期大学を東大阪大学短期大学部と改称
15年	1月24日	校名変更認可、平成15年4月から東大阪短期大学附属幼稚園を東大阪大学附属幼稚園と改称
15年	4月1日	東大阪大学こども学部こども学科開学
18年	4月1日	敬愛女子高等学校を東大阪大学敬愛高等学校に名称変更 柏原高等学校を東大阪大学柏原高等学校に名称変更 東大阪大学短期大学部家政学科を健康福祉学科に、食物栄養学専攻を健康栄養専攻に名称変更 家政学科生活デザイン専攻を平成18年度より募集停止
19年	3月31日	家政学科生活デザイン専攻廃止届出
22年	3月31日	東大阪大学敬愛高等学校商業科廃止
22年	4月1日	健康福祉学科を健康栄養学科に名称変更 健康栄養学科生活福祉専攻を平成22年度より募集停止
23年	3月31日	健康栄養学科生活福祉専攻廃止
23年	4月1日	東大阪大学こども学部アジアこども学科開設
28年	4月1日	東大阪大学短期大学部健康栄養学科を実践食物学科に、幼児教育学科を実践保育学科に名称変更
30年	4月1日	東大阪大学短期大学部介護福祉学科開設

2) 設置する学校・学部・学科（平成30年度）

- (1) 東大阪大学 こども学部 こども学科
アジアこども学科
- (2) 東大阪大学短期大学部 実践食物学科
実践保育学科
介護福祉学科
- (3) 東大阪大学敬愛高等学校 普通科（全日制課程）
- (4) 東大阪大学柏原高等学校 普通科（全日制課程）
- (5) 東大阪大学附属幼稚園

3) 当該学校・学部・学科の学生数（平成30年5月1日現在）

学 校 名	学部・学科名	学生・生徒数
東大阪大学	こども学部	288
東大阪大学短期大学部	実践食物学科	75
	実践保育学科	124
	介護福祉学科	81
東大阪大学敬愛高等学校	普通科	814
東大阪大学柏原高等学校	普通科	681
東大阪大学附属幼稚園		254
合計		2,317

4) 役員・教職員等の概要（平成30年5月1日現在）

- (1) 役員 理事 7人
監事 2人
- (2) 評議員 15人
- (3) 教職員 342人

	教 員		職 員		合計
	専任	非常勤	専任	非常勤	
法人部門	0	0	10	8	18
東大阪大学	25	23	14	5	67
東大阪大学短期大学部	34	28	17	5	84
東大阪大学敬愛高等学校	46	10	7	3	66
東大阪大学柏原高等学校	54	11	11	6	82
東大阪大学附属幼稚園	18	0	5	2	25
合計	177	72	64	29	342

2 平成30年度事業計画における進捗状況等

1. 評価育成制度の実施

本年度からの本格実施に向けて、各教員に教科指導・生徒指導・学級経営・課外活動の4つの分野に関して目標を持たせた。また、数値化できる項目、内容については数値化した目標を持たせた。個別面談では、目標・目標値の確認と、目標達成の方法をより具体的に聞いた。最終の報告で数値目標に対する達成度、自己評価を提出させ、優秀な3名を選出した。

2. 教科指導の充実

イ) 研究授業の実施

10月中旬 8教科の研究授業を実施 授業のない教員はほぼ全員授業見学を行い、授業の研究、向上に向けてよい研修となった。

ロ) 生徒による授業アンケートの実施

10月24日2学期中間考査の最終日に実施。各教員の授業について、具体的に「話し方は」「板書は」「説明の工夫は」「副教材の準備は」「適正な難易度か」など10項目に分けて生徒の評価を5段階に分けてアンケート調査を実施。また、文章による評価、感想、希望する改善点についても具体的に記入。個別に改善が必要な項目を校長より指摘。改善方法とその効果を目 評価育成制度の中で確認した。

校長より12月の職員研修会の中で授業アンケートの結果について改善を指示した。

ハ)「総合的な学習の時間」についてクラスでグループ研究を行い、中間発表とまとめの発表を1.2年総合進学コース、こども教育コースで行った。

3. 生徒指導について

イ) 問題行動の指導について

①今年度については問題行動、指導件数ともにおよそ4割減となった。さらに、指導された生徒数も減少した。学校全体の取り組みの効果が現れたのではないかと考えられる。規範意識については、年々向上しているといえるが、校外での規範意識の向上がより必要と考えられる。昨年同様、留学生の指導が多くなっている。留学生の数が増えているのに比例して、指導件数が増えている。寮内での指導についても今後徹底していかなくてはいけない課題である。

②平成28年度から導入したイエローカードによる指導の効果が顕著に現れ、問題行動同様イエローカードによる指導も前年より3割強減少した。

ロ) 生徒相談係

① 今年度、サポート対象生、1年生1名。

② 相談件数：面談5件 ケース会議 5件
学年、学級担任、保健室と連携し、相談しながら進めた。

4. 生徒会活動について

イ) スポーツ大会

① 大半の生徒はスポーツ大会の実施を肯定的にとらえ満足していると思われる。

② 進行がスムーズで審判と応援がしやすかったと全体に高評価だった。

③ 雨天実施案ということもあり、待ち時間が多くなり、学年別での実施を希望する意見が多くあった。

ロ) 体育祭

① 準備・片付けを例年のクラブ員ではなく、一般生徒が担当してくれた。

② クラス用テントを張らずに実施したが、特に問題はなかった。

③ 雨天で延期になり、平日にもかかわらず保護者に多数来校いただくことができた。

ハ) 前夜祭・敬愛祭

① 生徒感想は満足度の高い結果だった。

- ② 来場者 1580 名（昨年度 1480 名）
オープンスクールではなかったので中学生の参加は少なかった。
- ③ K I グランプリは生徒の満足度は高かった。
- ④ 前夜祭が雨のため、途中中止となったことが残念であった。

ニ) 生徒会行事

- ① 新種目を多数取り入れ、非常に盛り上がり、好評だった。

ホ) クラブ活動

- ① 陸上競技部、空手道部、柔道部の活躍は例年通り好成績であった。
- ② 体育館でのクラブ・サークル活動が盛んになり、クラブ加入数 約 300 名
昨年とほぼ同数。

5. 進路指導について

在籍人数 290 名 3 月上旬

コース		在籍	四年制	短期大	専門	就職	未定 (浪人・アルバイト含)
普通科	総合進学	197	79	15	59	26	18
	こども学	33	11	14	7	1	0
	調理・製菓	60	11	12	19	12	6
合計		290	101	41	85	39	24
%			34.9%	14.1%	29.3%	13.4%	8.3%
			78.3%				

① 進路全体の総括

平成 30 年度の進路状況は、昨年度と比べ、四年制大学、短期大学への進学率が若干減少し、専門学校への進学率が微増した。就職生徒は増加傾向であった。尚、未定者数も若干増加した。昨年度との差異としては、専門学校への進学者が昨年度より高かった。(合計 85 名。昨年度比 11 名増)。進学者の割合は 3.7% の減少であり、四年制大学への進学者割合では、4.7% の減少。短期大学では、1.7% の減少であった。また、内部進学者数は、41 名で、19 名の減少となった。進学者の中で指定校推薦入試を利用した者は、51 名で昨年度と若干名の減少であった。進学者の多くが内部推薦、指定校推薦、AO 入試等を利用して受験した。就職者数については、昨年度より 7 名増の 39 名であった。尚、進路未決定者数が昨年度と比べ、6 名増と増加した。

② 就職指導の総括

今年度の就職希望者は、昨年度より増加した。各企業から多くの求人票が届いたが、昨年度と違い、企業側も採用に関しては慎重に行っているように感じた。欠席が多い生徒などは、内定に大きく関係しており、欠席が多い生徒に関しては、内定をいただくために複数回受験する者もいた。また、外食産業、建設業、製造業、介護福祉などの業種は、受験者が少なく、企業側も高卒求人を熱望している様子であった。いち早く就職を決める生徒は、例年通り、夏休みから企業見学に参加する生徒や、欠席数が少ない生徒であった。欠席数は、進学、就職問わず、成績と共に合格を勝ち取るためにはとても大切な要項であるので、欠席数に関しては、各学年で周知徹底し、改善していかなければならない。

6. 入試広報について

イ) 中学校訪問

- ・ 生徒募集係 6 名で 1 人が約 40~80 校を年 2~6 回訪問した。人員が少ない中、担当校以外で、オープンスクールや入試説明会に参加してくれた中学生の学校にも訪問した。
- ・ 毎年の課題であるが、コースでの新しい改革を検討してほしい。大学との連携を強め、コースの特色や魅力をもっと伝える必要がある。次年度に向けてコース内容をより充実させ、多くの受験者が集まるようにしていきたい。
- ・ 東大阪市 7 校から進路説明会に呼んでいただき、直接中学 3 年生に学校紹介ができたが、受験

者には結びつかなかった。また昨年度同様、八尾市 1 校から高校生体験として、来校していただき、今後もこのような関係の学校を増やすことも大切だと考える。

ロ) 塾訪問・塾長対象入試説明会

- ・ 昨年度と同様、入試広報部だけではなく全員の先生方で割り振りをして、約 5 塾 2 回の訪問をしていただいた。訪問する塾もなるべく昨年度と同じ塾を割り当て、場所確認などの不安が少なくなるよう心がけた。来年度も引き続き同じ塾を割り当て、つながりを強化していけたらと思う。
- ・ 塾長対象入試説明会を今年度は「懇親会」として開催したが、参加者数が少なかった。懇親会も、在校生の通っていた塾の先生は参加されずに帰られ、内容は検討する必要がある。「塾説がないと塾生にはすすみにくい」という訪問先からのご意見や、塾とのつながりのことを考えると、今後も毎年 1 回は実施していく必要があるように思う。

ハ) 広報活動

- ・ 昨年度と同様、目を引く色使いや、わかりやすいキャッチコピーなどのデザインを採用した。しかし、今年度の受験者の結果を受け、来年度は、デザイン、内容ともに検討すべきものがある。
- ・ ここ数年、ポスター、パンフレットなどの納期が各学校、だんだん早まっている傾向にあり、4 月の訪問でポスターを持参する高校も出てきている。今年度の中学校訪問で、広報物を持ってくることが遅いというご指摘を受けたこともあり、来年度は 5 月の GW 明けには完成する予定で進めている
- ・ オープンスクール・入試説明会では昨年度の参加者約 2000 名と比べ、今年度は約 1700 名と少し減少となった。
- ・ 昨年度は新校舎記念イベントを 8 月に実施し、計 6 回のイベントがあったが、今年度は計 5 回と 1 回少なくなったのも受験者が減少した 1 つの要因であると考えている。来年度は計 6 回実施し、受験者増加につなげたい。
- ・ 公立高校もオープンスクールに力を入れている傾向になり、中学生にとってはオープンスクールを自身の進路と結びつけるというよりは、楽しい体験型のイベントとして捉えているのではないだろうか。そのために、一人の中学生が多くの学校のイベントに参加し、オープンスクールの参加者数と出願者数に開きが生じたと考えている。
- ・ 冬休み受験集中講座では 2 日間で約 430 名の参加があり、昨年の 719 名から大幅に減少した。毎年の課題であるが、併願生が多く参加していることもあり、内容は今後検討していく必要がある。授業の内容は、もう少し敬愛の入試問題に特化させるなど、受験生の参加への満足度を上げていきたい。また、入試をより意識させるために、名称を再検討した方がよい。
- ・ Keiai レターでは生徒の近況を中学校に知ってもらえる良い機会となった。掲示していただいている中学校もあり、次年度も継続して実施していきたい。
- ・ 私学展は 7~8 人体制をとった。今年度は入試広報部の先生方で対応することができた。相談件数は、1 日目 85 名・2 日目 106 名で、昨年より 34 名減だったが、オープンスクールなどの参加者数を考えると、直接的にはあまり関係がないのかもしれない。
- ・ 私学展用のツール、夏服セーラーのミニチュア、こども教育や調理・製菓を象徴するアイコンなど、ポスターやチラシ以外で飾り付けをして、もっとアピールできようようにしていきたい。
- ・ 外部の相談会には 4 件参加したが、相談件数が 10 件未満のものがあり、次年度は必要なものと必要でないものを厳選して参加したほうがよい。
- ・ 私学展で本校のブースが地味だったので、新たにタペストリーといすカバーを作成した。来年度に活かしていきたい。
- ・ 広報活動を充実させるために、ホームページ係は入試広報部に所属し、昨年度より多く更新できたのではないと思う。しかし、毎日更新している学校も多く、より多く更新していけたらと思う。公式 Instagram、Facebook、Twitter などを新たに作り、活用していきたい。

今年度の入試結果は、受験者数は専願で 71 名・併願で 159 名、合計 673 名となり、昨年の 903 名から 230 名の減少となった。オープンスクールの参加状況から、受験者は少し減少する程度と考えていたが、入試説明会、勉強会の参加が非常に少なく、大幅な減少となってしまった。単年度で見ても原因を把握するのは困難で、様々な要因が重なったと考えられる。イベント参加者数と受験者数が必ずしも比例しないという傾向を念頭に入れて、今後もさらにオープンスクールの

告知方法や内容などを考えていきたい。継続して公立の入試制度の編改革に負けない魅力ある学校を創造する必要がある、どのコースも特色を打ち出し、魅力のあるコースとして募集していきたい。

3 財務の概要

別添 平成30年度	資金収支計算書	
	事業活動収支計算書	
	貸借対照表	
	財産目録	
	監査報告書	参照